

平成 29 年度第 1 回高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会  
議事録

日時：平成 29 年 6 月 12 日（月） 19：00～21：00

場所：高知共済会館 4階 浜木綿

出席者：高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会委員 7名  
事務局 5名

## 1. 開会挨拶

---

医事薬務課 浅野課長より開会の挨拶があった。

## 2. 患者のための薬局ビジョン推進事業について

### (1) 事業概要

### (2) 高知家健康づくり支援薬局を活用した県民の健康づくりの推進について

---

事務局より、平成 29 年度事業概要と事業計画の説明があった。

(概要)

- ・高知家健康づくり支援薬局と高知家健康パスポートの連携がはじまったこともあり、支援薬局の制度が県民からわかりやすいものにするを考えて、要領の改正を行う。また、高知県のすべての薬局が支援薬局として認定され、活動できるよう薬剤師会と県とで取り組んでいきたい。
- ・委員の皆様のご所属団体から、薬局が県民へ提供するための健康関連情報の一つである「高知家の健康だより」に掲載してはどうかという情報があれば、ご一報をお願いしたい。

### (3) 高知家お薬プロジェクトについて

---

事務局より、平成 29 年度事業概要と事業計画の説明があった。

(概要)

- ・モデル地区を中央東福祉保健所管内全薬局と高知市の全薬局に設定して取り組む。
- ・多職種と薬剤師の連携ツールは平成 28 年度モデル地区では「残薬報告書」というものを作成して活用した。今年度もこの連携ツールがベースにはなると思うが、地域の薬剤師がワークショップ等を実施して地域の実情にあったものにする。

## ◆意見等

- ・今年度は高知市もモデル地区に加わり、取り組むことになっている。高知市は、県内の約半数の薬局があり、薬剤師会としても、支部を中心に地域単位で様々な関係団体や事業所と連携しながら進めて行かないといけないと考えている。
- ・歯科医師会では、在宅歯科連携室を高知市と幡多に開設し取り組んでいる。歯科衛生士が不足している（特に幡多）状況である。

- ・患者宅を訪問すると、飲み残し薬ももちろんであるが、薬を飲み過ぎている事例もある。頓服であっても、薬局でもらってきた薬は次に行くまでにはすべて飲まないといけないと思って飲んでいるパターンがあった。そのためにも飲み残し薬だけに着目するのではなく、薬の飲み過ぎや飲み間違いも薬局へ相談できるような体制になれば良いと思う。

#### (4) 紙版・電子版お薬手帳の普及啓発について

---

事務局より、普及啓発について説明があった。

(概要)

- ・高知 e-お薬手帳は今まで IC リーダーライターの設置薬局を増やすということで整備してきた。IC リーダーライターは不具合が生じたり機種によっては読み取りができないこともあり、アプリの会社へ相談したところ、薬局のレセコンパソコンの設定の変更でお薬情報の入った QR コードが出せるようになるということであった。設定変更は費用もほとんどかかるとは聞いていたため、今後、高知 e-お薬手帳の普及としては、保険薬局で QR コードを出せるように設定変更できないかお願いをしていくことを検討している。

#### ◆意見等

- ・高知 e-お薬手帳の QR コードが出せる薬局を増やすため、薬剤師会から保険薬局あてに調査・協力依頼を行う予定。

## 2. 報告事項

### 高知家健康づくり支援薬局認定制度実施要領の改正について

---

事務局より改正案の概要について説明があり、今後必要な手続きを進めて行くことで了承となった。

## 3. その他

---

#### ◆次回開催日時

平成 30 年 2 月頃予定